

no.28

CLC からしだね書店便り

April
2023

4

CLC からしだね書店では…

- 1 キリスト教書だけでなく、福祉、心理、精神、哲学、児童書、その他一般の良書もそろえています。
- 2 お洒落 でかわいい 雑貨や小物 もあります。
- 3 ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチ も提供しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
- 4 コーヒーを飲み にきてくださるだけでもけっこうです。
- 5 図書コーナー も併設予定です。ドリンクを片手に、お好きな本を手にとってお読みください。
- 6 古書のコーナー もあります。ほりだしものあります。
- 7 読書会 や著者を招いての講演会など、人と人が出会い、つながる「対話」の場を提供します。

CLC からしだね書店 & *おまかせブック*
営業時間 11:00-17:00
定休日 日曜日と年末年始（※祝日も営業）
毎月第3木曜日は書店のみ営業



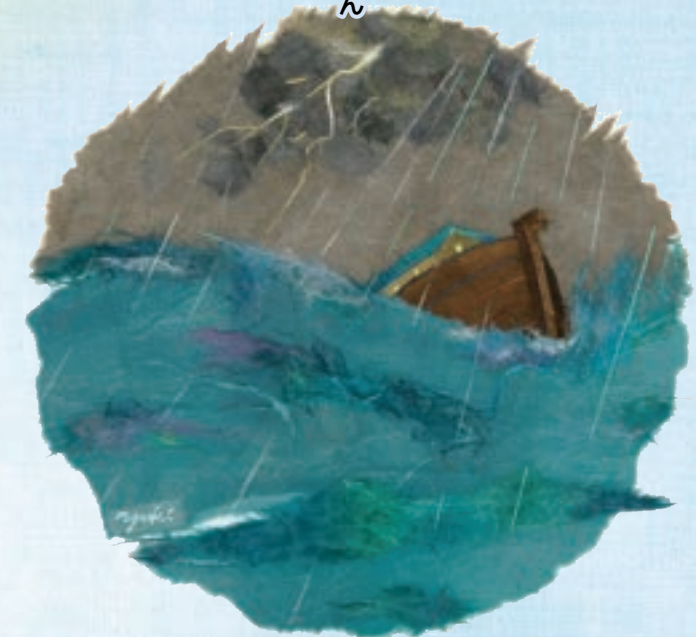
おとなのための 神の物語 子どもだったみなさんへ

- 1 自然災害が起こるたびに、「これは神の裁きなのか」という声があがります。それは誤り。「わたしは、決して再び人のゆえに、大地にのろいをもたらさしめない。」(創世記8:21)と神さまは言ったからです。すべての苦しみもまた裁きではありません。
- 2 どんなときでもにじを見るなら、いえ、世界の美しさを見るなら、神さまのなみだを思うことができます。私たちを、そして、世界を思う愛のなみだを。
- 3 世界の回復のために立ち上がって、神さまとともに働くときも、やはりなみだは流れまます。でもそのひとしずくごとに、だれかがいやされています。
- 4 もっともつらいなみだはすでに流されつくしたことを思います。十字架の上で。そして復活という約束のにじがかけられたことを。

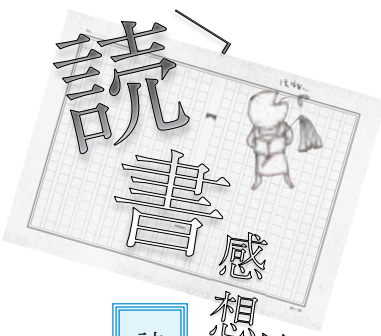
和紙ちぎり絵：森住 ゆき もりずみ ゆき
 群馬県生まれ。和紙ちぎり絵作家。著書に画文集「アメイジング・グレイス」「ぶどうの気持ち」「日めくり片隅の花でも」(いのちのこば社)、「思いを伝える和紙のちぎり絵春夏秋冬」(日貿出版社)がある。埼玉県在住。

第4回 ノアのはこぶね

そのころ
 世界はいじめや自分かってばかり
 みんながうめいていました
 ある日
 すごい勢いの雨がふりはじめてやみません
 まるで神さまのなみだのようでした
 神さまのなみだのような雨が
 世界をおおって 何もかも沈み
 もううめきはきこえなくなりました
 いえ だれかの泣き声だけがきこえます
 はこぶねにのって助かったノアの
 神さまはにじをかけて言いました
 「ノア もう泣かなくていいよ
 にじをにじらん
 そして うめきのない世界をつくろう
 わたしと いっしょに」



大頭 眞一 おおずしんいち
 1960年神戸市生まれ。英国マンチェスターのナザレン・セオロジカル・カレッジ(BA、MA)と関西聖書神学校で学ぶ。日本イエス・キリスト教団香登教会伝道師・副牧師を経て、現在、京都府の京都信愛教会と明野キリスト教会の牧師、関西聖書神学校講師、焚き火塾代表。ドリームパーティー発起人。



大山さんの「無声慟哭」

詩集『見えない涙』

若松英輔（垂紀書房） 1980円



この本に収められた詩が生まれてくるのに立ち会いながら、しばしば思い返していたのは宮澤賢治の「無声慟哭」と題する詩だった。詩というよりも、その題名そのものだといった方がよいのかもしれない。

「慟む」は「いたむ」と読む。それは「悼む」と同義だが、「慟」の文字の方が、心の揺れ動くさまがいつそうはつきりと示されている。「哭」は「大」の文字があるように、人が獣のように哭くことを指す。

こうした行為に賢治は「無声」という言葉を重ねる。本来ならば、天地を揺るがすような声で哭くはずなのに、声が出ない。哭くことが極まったとき、人は声をうしなうというのである。

同質の現象は声ばかりではなく、涙においても起こる。悲しみの極点に達したとき、目に見える涙は涸れ、その心を見えない涙が流れることがある。悲しみの底を生きている人はしばしば、声に出して哭かず、涙を見せず暮らしている。（本書101〜102頁）

私は、若松英輔さんの文章が好きだ。感情のもっとさらに奥深く、私自身の「生きる」ために欠かせない何かが反応する。

この二日間、ことばにできない何かがつつとこころの深くで鳴り響いている。

こころの底にとつかり滞留しているその何かをことばにして外に出したい。

早朝に目を覚ました私は、そのことばを探した。そして、若松さんの文章に出会った。

「無声慟哭」
私が探していたことばは、これだ。

メダテ教会の信徒の一人、大山さんは、60代の男性だ。重度の難聴に知的の障害がある。

礼拝では、会堂中央の最前列に座り（座らされ）、隣に座る信徒とともに、礼拝中に「寝るな！ ぼーっとするな！」と西田先生に怒られまくっている。

酒とたばこ、借金まみれの暮らしをしてきた彼には、隙あらばど、たばこ酒の誘惑が襲いかかる。

人目を盗んではシケモクや酒を口にする。

不器用な彼はそれを隠し通すこともできず、西田先生の愛のかみなりに打たれつばなしである。

難聴の彼が歌う賛美歌は、調子つばずれで、音痴という言葉では物足りないくらい。

曲の原型がわからないくらいの歌声だが、自由にのびのび歌うその姿に、目が離せなくなる。

ああ、賛美ってこれなんだ……奏楽をしている私は、大山さんの歌う姿を背に感じながら、本物の賛美に触れていると感じている。

どんなに怒鳴られ、どんなに失敗が指摘されても、数分後には「ニタニタ」と笑っている。

怒鳴り飛ばす西田先生も、周囲の人たちも、その「ニタニタ」で力が抜け、そして、「一緒に「ニタニタ」してしまっただ。

「もうええわ」と思わず許しの言葉が出てしまっ。

私は、この大山さんの「ニタニタ」が好きでたまらない。礼拝中、何度も目が合う。

すると彼は、マックスの「ニタニタ」をくれる。

一日何度も。理由もなく。

最近、大山さんと私は「ハイタッチ」を交わす関係になった。

帰る間際の「ハイタッチ」は、私にはなくてはならないものになっている。

「あなたの置かれた場所で頑張りなさい」と、自分の現実に戻っていく私の背中を、大山さんの優しい大きな手で送り出してもらっている気がしている。

その大山さんのことを話していた時に、西田先生が言った。

「この子、親に腎臓売られてるねん」

その後先生とどんな話をしたのか、よく思い出せない。

「この子、親に腎臓売られてるねん」

これがぐるぐる頭を回って離れなくなった。

何をしても、「この子、親に腎臓売られてるねん」が私のこころのどこかですつと鳴り響く。

じつとしていられないのに、一体何をどうしたいのかもわからない。

そして今朝、若松さんの「無声慟哭」ということばに触れ、ハツとした。

私は大山さんの「無声慟哭」を思った。声にならない叫びのような涙を思った。

腎臓を売られた大山さんの絶望を思った。
泣くことも、叫ぶこともあきらめられた大山さんの孤独を思った。
苦しくなつて、泣いた。

泣きながら、ふと、今の大山さんを思った。
泣いているのが場違いに感じた。

今、彼は、絶望の毎日を生きているのか。
違う違う。彼の毎日は絶望なんかじゃない。

「無声慟哭」は絶望や暗闇とイコールではない。

その「無声慟哭」を放つておかない存在がいるのだ。

その存在によって「無声慟哭」は、神を知るためのめぐみとなるのだ。

大山さんの「ニタニタ」笑顔には、声にならない涙が隠れている。

隠しているのではなく、隠れている。

深い闇を生きるしかなかった人の表情がそこにはある。

その「無声慟哭」に西田先生が反応した。

彼を家族に招き入れ、とことん愛した。

理解できようができませんが、徹底的に神の愛をぶち込んだ。

今の彼は、神の愛と、家族のつながりの中で、

調子つばずれの賛美歌をのびのびと歌い、
礼拝中に大声で叱られ、
いつも、メダダの仲間の車いすを押している。

「あの子な、いつもニコニコしてるやろ。」

めっちゃやられとんねん。

せやけどな、笑いよんねん。

車いすもよう押しよるで。

あれがあの子のたまものや。」

大山さんの話をする西田先生から、愛しくてたまらない様子が
伝わってくる。

「愛する我が子」と言いながら大山さんを抱きしめる神様の笑
顔も浮かんでくる。

私は「無声慟哭」のそばにいたい。

あなたの流れない涙を、声に出せない叫びを、大切に
てくださるお方がいることを、知ってほしい。

そして、どうか、顔を上げて生きてほしい。
と、願いながら。

【からだねセンター 武山 世里子】

店長のコラム
映画「ロストケア」観に行きました
「ロストケア」葉真中彬著 光文社文庫 680円＋税

42人の高齢者を殺した介護士・斯波（松山ケンイチ）と、彼を裁く立場の検事・大友（長澤まさみ）のお話です。映画では、逮捕された介護士の殺風景なアパートに聖書が一冊あり、「だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。（新共同訳聖書マタイによる福音書7章12節）」という聖句がクローズアップされます。部屋を訪れた検事は「黄金律…」と、つぶやきます。検事には高級有料老人ホームに入居しているクリスチানের母親がいます。高級有料老人ホームは至れり尽くせりの天国ですが、自宅で介護をするお金のない高齢者とその家族のいる場所は地獄です。介護の厳しい現実を家族だけで背負い、生活もところも家族の絆も崩壊していく…彼らは「穴」に落ち込んだのです。「お金のない高齢者とその家族」も、介護が必要になるまではささやかに幸せに暮らしていた人たちで、それはまさに映画を観ている私自身であり、条件さえ整えば、私もまた「穴」に落ちてしまう、私は穴のふちをバランスを取りながら歩いているに過ぎないのだと、いやでも自分自身を重ね合わせてしまいます。

さっそく、原作の小説も読んでみました。小説の設定では検事は男性で、幼児洗礼を受けた自らを「非クリスチャン」と名乗ります。イエスの物語は、物語でしかないと考えていますが、キリスト教的環境に育った彼の中には、聖書が刷り込まれているようです。彼のキリスト教的環境に根付いた「性善説」は、検事としての在り方や被疑者と向き合う姿勢にも表れます。そして罪を犯した人には徹底的に、「悔い改め」を求めます。「裁きとは、単に事実を確認して刑罰を与えるのではなく、善性に訴えかけ罪を背負わせること、罪悪感を抱かせ悔い改めさせることだ。（p.158）」と。ですから、殺人鬼斯波の善性に働きかけ悔い改めを迫ろうと躍起になりますが、斯波は「僕は正しいことをしました」と言いきります。犯罪を犯したことは認めても、それは「罪」ではない。これは自分にとって「召命」なのだ。ここだけを取りあげると、なんだか薄っぺらで自分勝手な正義感だけで突っ走る人物のように聞こえるかもしれませんが、読者に「なるほど、斯波の言うことはもっともだ」と思わせるだけの説得力があり、むしろ「安全地帯」から「正しい主張」をする検事の方が、浅はかで狂っているように感じます。

この小説では、自分自身の倫理観、宗教観、信仰観がジェットコースターのように揺さぶられまくります。揺さぶられるのが嫌な人は読まないほうが良いのかもしれませんが、でも揺さぶられまくるその先にこそ、「神」が存在するのではないかとも思います。小説中で、かすかな希望として存在するのは、出番の少ない検事の妻・玲子だと思いました。彼女は、どうやら三浦綾子氏の「塩狩峠」を読んでいるようです。大友との結婚を機に半ば成り行きで洗礼を受けた玲子は、検事の妻としての重責や見知らぬ土地を転々としながらの子育て、そして東日本大震災に遭遇したことにより、心に大きな痛みを受け動けなくなります。「成り行き」の中で引き受けざるを得なかった「弱さ」と一緒に、再び「成り行き」のままに生きようとする玲子の気負いのない姿に、一筋の希望と明るさを感じるの、私だけでしょうか。

最後に、福祉の現場で働く者からのお話です。介護のことで困ったら、一人で抱え込まずに、お近くの「地域包括支援センター」をお訪ねください。



カフェトライアングルの おすすめ手作り雑貨

使い込むごとに色が
変化しながらいきます
革の聖書カバー
8,000円

オリジナルデザインの
革製パスケース
1,650円

店頭のもので最後です
名刺・カード入れ
3,300円

PEACEの刻印入りです
革キーホルダー
1,320円

クロスステッチの
バースデーカード
380円

一針一針といていないに
仕上げています。

手芸の得意なスタッフが
全て制作しています

500円均一
あみぐるみストラップ



表情もひとつひとつ
違うあみぐるみたち
イヌのあみぐるみストラップ
1,200~1,500円



▼タマゴサンド

▲バレエシューズ

▲ビール



▼ソフトクリーム

▲桜もち



足あと刻印の
革の靴ペラ
1,500円

【オンライン読書&トーク会のご案内】

日程 2023年5月5日(金) 13:30 ~ 15:30
 参加申込 clc@karashidane.or.jp (担当:坂岡恵) まで。
 お名前と、クリスチャンの方で差し支えない方は、所属教会を教えてください。おすすめ本があれば、教えてください。
 申込締切 4月末日*ニックネームでの参加もOKです。

イベントの おしらせ

テーマ
「宗教2世」と「クリスチャン家庭の子ども」
 一地域に信ちないために、がんばる子
 厚労省から宗教2世への虐待「ガイドライン」が示されましたが、クリスチャン家庭や教会学校は、今、子どもたちにどんなふうにかかわっているのでしょうか？「心情的虐待をしていません」とちゃんと説明できる、私たちの「ガイドライン」とは、何でしょうか？このテーマからおすすめしたい本があれば、その本の紹介と、そこから考えたことも、語り合えたらと思います。どなたでもお気軽に、ご参加ください。



なかなか思い通りにいかず、複雑な気持ちで春を迎えている多くの人たちに

「なんだかどつもどつまくいかなくて、でも、最後までがんばった 受験生の君へ」

目指していた第一志望の国立大学が不合格になり、
期試験、またしても不合格。
今年、どつしても大学生にならないといけない事情を抱えた君は、
し当て、青春18きっぷと願書を握りしめて、家を飛び出していったと聞きました。

18歳、大人になる前の大きな試験
大学受験に親がくっついていく時代に、君はたった一人で、重なる「不合格」の知せに心が折
れそうになりながら、確実に進路を決めていく友人たちに「おめでとう」と言いながら、どんど

んひとりぼっちになりながら、それでも必死で闘っている。
自らの道を探しあてようとしている。
すごいなあ、と、ただただ、すごいなあ、と思います。

ストレートで、有名大学に合格する能力と努力、それはそれです(い)ことです。

でもそんな(い)よりもっとすごいのは君のその「悪あがき力」です。
あがき「するその力を、18年の間に、君はちゃんと養って来たのです。」(い)と(い)時に「ちゃんと悪

落(い)されても落(い)されても、18歳の君は、自分の人生に食ら(い)こ(い)こ(い)への(い)です。

がんばった結果が報いられて、順調に門戸が開かれていく人たち、それはあたかも、
ボアスの畑の収穫物を、十分に手にすることができた人たちのようです。

一方、君は、思い描いていた畑の収穫物にありつけず、遠方の畑まで走って行って、残してお

かれた落ち穂を、腰をかがめて拾って回る人のようです。
畑の収穫物は、畑の所有者のものではありません。陽を照らし雨を降らせた神様のものです。だ

から、神様は君のために、畑の所有者に命じられました。

「落ち穂」を「残しておきなさい」と。

「落ち穂」は、君のために「君のものとして」神様が残しておかれたのです。君はその泥に
駆けずり回って、はあはあ息を切らしながら、汗をかきながら、腰をかがめて、君はその泥に

まみれた手で、神様からの「とっておき」の「落ち穂」を、労して拾うのです。
君の独り立ちの第一歩が、「落ち穂」であったこと、このことこそ、神様からのすばらしい贈り
物です。

どうか、胸をはって、堂々と、自分で探しあて、自分の手で拾った「落ち穂」でおなかを満た
してください。

君の人生は、良いもので満ちています。
祝福で満ちています。

(2021年4月号より再掲)

古書献本のお願い

たいへん申し訳ございませんが、送料をご負担いただくとありがたいです。(受付できないものもありますので事前にお知らせください。ご事情により当店より回収に行かせていただくこともあります。ご相談ください)

【献本をお願いしたい本の種類】

- 1 キリスト教書、キリスト教に関連した本 (多少、書き込み等があっても、大丈夫です)
- 2 哲学、心理学等、人の生き方に関する本
- 3 社会の中で起きている問題を扱った本
- 4 暮らし (料理、健康、経済等) にかかわる本
- 5 小説 (人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)
- 6 漫画 (人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)

百科事典・辞書・開封済みの
CD・DVD・月刊誌・週刊誌等は
受け付けておりません

【本の送り先】

住所：〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館

宛先：CLC からしだね書店 献本係 電話：075-574-1001 FAX075-574-0025

Mail：clc@karashidane.or.jp

【本と一緒に以下の内容を記入したメモをお願いします】

①献本者のお名前②ご住所③お電話番号④メールアドレス⑤さしつかえなければ、献本者の簡単なプロフィールをお願いします。

【献本感謝】

北村優子様、大嶋紗綾子様、アセンブリー京都教会様、伏見隆次様、和田耕作様 (順不同)

3月の古書の収益は53,660円でした。【古本の売上を含むCLCからしだね書店の収益は、すべて、書店で働く障がい者の工賃になります】献本くださった方のお名前を書店だよりにご紹介させていただきたいと思います。匿名ご希望の方は、お知らせください。ご寄贈いただいた皆様、ありがとうございました。

編集後記

◆桜は今や卒業式の写真の背景に写るものになってしまいました。毎年、ゆっくり花見がしたいと思いつつ、時間がとれずに、職場から見える山科川沿いの桜を楽しんでいます。◆玉子の高騰でたいへんななか、イースターエッグのためのエッグラップは今年も売れ行き好調でした。からしだねオリジナル手作りグッズも、好評発売中です。◆新しい年度に入り、入学式や入社式の様子が放映されるシーズンです。若い皆さんの笑顔は素敵だなと思いつつ、なかなか思い通りにいかず、複雑な気持ちで春を迎えている多くの若い人たちに、エールを送りたくなりました。それで、2021年4月号の書店だよりに掲載した文章を再掲しました。この春、どうかお一人お一人の上に、神様の豊かな祝福と励ましがありますように！【店長】

編集・発行：社会福祉法人ミッションからしだね
就労継続支援A・B型事業所からしだねワークス
からしだね書店&カフェ・トライアングル
〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館
書店電話番号 075-574-1001 FAX 075-574-0025
書店メール clc@karashidane.or.jp

CLCからしだね書店だよりの
バックナンバーはこちらから

